

様式 A-2 (設計者から建築主事へ: 指定機関用)

報告対象 建築物	建築主	建築確認	番号: H 東建セ- 号 年月日: 平成 年 月 日
	建築場所	施工者	名称 電話番号

地盤の状況判断と基礎の設計に関する報告書

標記の建築に関する「地盤の状況判断と基礎の設計」について、下記①～⑧のうち○で囲んだものとしたことを、報告します。

平成 年 月 日

宮城県 _____ 土木事務所 建築主事 _____ 様

建築士事務所(名称、電話) _____ Tel _____

設計者氏名(個人名) _____ 印

- ① 地盤の長期許容応力度の制限がない**杭基礎**とした。
- ② 地盤の長期許容応力度が 20kN/m²以上と判断し、**鉄筋コンクリート造のべた基礎**とした。
- ③ 地盤の長期許容応力度が 30kN/m²以上と判断し、**底盤の幅が下表2の(1)である RC 造の布基礎**とした。
- ④ 地盤の長期許容応力度が 50kN/m²以上と判断し、**底盤の幅が下表2の(2)である RC 造の布基礎**とした。
- ⑤ 地盤の長期許容応力度が 70kN/m²以上と判断し、**底盤の幅が下表2の(3)である RC 造の布基礎**とした。
- ⑥ 地盤の長期許容応力度が 70kN/m²以上で、かつ、密実な砂質地盤その他著しい不同沈下等の生ずるおそれのない地盤にあり、基礎に損傷を生ずる恐れのない場合と判断し、**無筋コンクリート造のべた基礎**とした。
- ⑦ 地盤の長期許容応力度が 70kN/m²以上で、かつ、密実な砂質地盤その他著しい不同沈下等の生ずるおそれのない地盤にあり、基礎に損傷を生ずる恐れのない場合と判断し、**無筋コンクリート造の布基礎**とした。
- ⑧ 構造計算により、_____とした。

表1: 基礎の形式と地盤の長期許容応力度の関係(平成12年建設省告示第1347号)

基礎の形式	地盤の条件
杭 基 礎	地盤の長期応力度の制限はない。
鉄筋コンクリート造のべた基礎	地盤の長期応力度が20kN/m ² 以上。
鉄筋コンクリート造の布基礎	地盤の長期応力度が30kN/m ² 以上。(表2を参照)
無筋コンクリート造のべた基礎 無筋コンクリート造の布基礎	地盤の長期応力度が70kN/m ² 以上で、かつ、密実な砂質地盤その他著しい不同沈下等の生ずる恐れのない地盤にあり、基礎の損傷を生ずる恐れがない。

表2: 布基礎の底盤の幅(平成12年建設省告示第1347号)

地盤の長期許容応力度	建築物の種類		その他の建築物
	木造または鉄骨造その他これに類する重量の小さな建築物		
	平屋建て	二階建て	
(1) 30kN/m ² 以上 50kN/m ² 未満	30cm以上	45cm以上	60cm以上
(2) 50kN/m ² 以上 70kN/m ² 未満	24cm以上	36cm以上	45cm以上
(3) 70kN/m ² 以上	18cm以上	24cm以上	30cm以上

